

国際部会

国際交流フェア

国7-国 鐘築 重治

2月29日(日)「神戸国際交流フェア2004」がハーバーランドスペースシアター&デュオドームで開催され、「わ」国際部会として出展参加した。

神戸国際交流フェアは1997年1月に「がんばれ!こうべっこ国際交流フェア~GO KOBE! 震災復興2周年」として開催され今回で8回目を迎える。

「神戸国際交流フェア2004」は神戸市を中心とした国際協力・交流団体の連携と協力関係を深めると共に、市民の国際交流の輪を広げる機会とし、参加団体の活動紹介を通じて、神戸の震災復興を実感して貰う場として開かれた。



パネル1枚分巾のブース。ポスターがやや小さかった。

当日は国際交流団体紹介ブース、各国食の紹介屋台、各国文化紹介ステージなどのスペースが設けられ、終日繰り広げられる数々の催しものに多数の人出で賑わった。

「わ」国際部会の紹介ブースは、神戸駅南地下街への階段正面に位置する格好の場所にあり、国際部会の活動紹介を示すポスター展示と、「わ」の紹介資料を配布用として用意した。展示ブースは両隣が台湾、スペインといった友好団体の華やかな観光紹介¹



2日目大会議室で歓迎の挨拶をする神戸市長。画面右下のパソコン切替卓、右上のPRJなどが我々の持ち場

ICBN'04

国6-国 朝日 照夫

2月、神戸国際観光コンベンション協会より5期久保雅一さん宛に国際会議ボランティアの打診があった。会議の名前はICBN'04で、通信と広帯域ネットワークの国際会議と言う英文頭文字をとったもの。

会議は4月7、8、9日の3日間、ポーアイの国際会議場で行われ、毎日9名分の役が割り当てられた。ほかに前日の準備に6名が求められ、1期から8期までの部会員20名が交替で任についた。

ブースであったため、来場者の関心がそちらに向いて素通りが多かった。まじめに説明を聴いてくれる人もいるが、大半の市民の関心の度合いは残念ながら低いと云わざるを得ないように見受けられた。それでも約50部の資料は配布することができた。シルバーカレッジの存在すら知らない市民も多数いて、ここから説明をしなければならず啓蒙の必要性を痛感させられた。

今回が初めての参加であり展示物、配布資料等十分なものは用意できなかったが、反省の上さらに検討を加え次回も積極的に活動紹介を行いたい。

割り当てられたポジションは3箇所だった：

(1)大会議室 5名。ステージ両翼に各2名ずつと2階ギャラリー1名で、講演者への水や、感謝盾、感謝状の用意、照明の切替え、投射パソコンチャンネルの切替え、プロジェクター・シャッターの開閉、質問者へのマイクの手渡し・回収、アンケートの回収など。

(2)クローク 2名。主に駅から直接来られた参加者の荷物などを預かった。

(3)事務局補佐 2名。予め準備できなかったレジメのコピーやスタッフへの連絡などを担当した。

瞬間的に忙しいときもあったが、概して手すきの多い仕事だった。

大会議室では終始会議を見聞きでき、次世代携帯の動向など興味深いものだったが、専門的な略語と出身国の訛りの強い英語で、中身は殆ど聞き取れなかった。しかし参加者は日本人でもどんどん質問する人もいて、若い人達の国際化を感じた。

裏方のつもりだったが、最終日の閉会挨拶で議長が我々にも謝辞を述べてくださり、参加者の拍手を貰ったとき、お役に立てたんだという嬉しさが背中をズーンと貫いて行き、その興奮は翌日まで残った。